

大阪はびきの医療センター 第61号 令和3年5月

## 地域医療連携室だより

『地域に信頼され、地域になくてはならない病院へ』をスローガンに、地域の医療機関の皆さまと更なる連携を強めたいと思っております。  
今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



### 腹部救急受け入れのお知らせ

このたび、地域医療支援病院としての役割充実を目指し、救急対象範囲を拡大いたしました。消化器内科、泌尿器科、婦人科、放射線科、麻酔科のバックアップも整っておりますので、どうぞご紹介ください。

【受入時間】 9:00～17:30

(祝日除く平日の月曜日から金曜日まで)

【受入対象】 腹部救急疾患一般

\* 診断断未確定の急性腹症も受け入れます。

【連絡方法】 地域医療連携室 直通電話 072-957-8030

\* 地域医療連携室から消化器外科担当医師におつなぎします。



### 6月のはびきのチャンネル

#### “関節リウマチの診断と治療”

6月17日(木) 14:00～15:00

アレルギー内科 石田 裕 先生

\* 詳細および申し込み方法は同封しておりますチラシをご参照ください。

\* 今までののはびきのチャンネルの動画をアーカイブとしてご覧いただけます。(登録医限定)

詳細は、地域医療連携室までお問い合わせください。



# 乳腺外科 Vol.2

乳腺外科主任部長 安積 達也

## 遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）について

(HBOC:Hereditary Breast and Ovarian Cancer syndrome)

遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）は、BRCA1 遺伝子または BRCA2 遺伝子の生殖細胞系列の病的な変異が原因で乳がんや卵巣がんを高いリスクで発症する遺伝性腫瘍の 1 つです。生殖細胞系列における BRCA1/2 遺伝子の変異は、親から子へ、性別に関係なく 50%の確率で受け継がれます。HBOC の方は、乳がん、卵巣がん、前立腺がん、膵臓がんなどの発症リスクが高いことがわかっています。（表 1）BRCA1/2 遺伝子の病的変異を持つ家系で、乳がん、卵巣がんを、まだ発症していない家族に遺伝子検査をすることで、効果的な対策が可能となることより、HBOC の発症が心配な場合は、専門の医師やカ

ウンセラーに相談し詳しく説明を受け、将来の健康について専門家の意見とアドバイスを受けることが勧められます。

表 1) 遺伝性乳がん卵巣がん症候群における癌発症率

がんの種類	日本人一般の生涯罹患率	BRCA1 遺伝子に病的バリエーションがある場合	BRCA2 遺伝子に病的バリエーションがある場合
乳がん	10.30%	46~87%	38~84%
卵巣がん	1.30%	39~63%	16.5~27%
前立腺がん	9.70%	65歳までに8.6%	65歳までに15% 生涯を通じて20%
すい臓がん	2.5% (男性) 2.4% (女性)	1~3%	2~7%

国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

表 2 のように、若年発症乳癌や、トリプルネガティブと言われる乳癌、両側乳癌の方、近親者に複数の乳癌や卵巣癌の方がいらっしゃる場合は、遺伝性乳がん卵巣がん症候群の可能性が考えられ、遺伝カウンセリングを受けた上で、遺伝子検査を受けることがすすめられます。

表 2) 遺伝性乳がん卵巣がん症候群を考慮すべき状況

若年発症乳がん(50歳以下)  
トリプルネガティブ乳癌(ER陰性、PgR陰性、Her2陰性)  
同一患者における2つの原発性乳がん(両側あるいは同側に複数の病変)  
年齢に関わらず以下の乳がん患者

- ・50歳以下の乳がん罹患した近親者が1人以上
- ・卵巣がん罹患した近親者が1人以上
- ・乳がんおよび/あるいは膵臓がん罹患した近親者が2人以上

乳がん以下の1つ以上の悪性疾患を併発している家族がいるにゅがん患者  
膵臓がん・前立腺がん・肉腫・副腎皮質がん、脳腫瘍・白血病・甲状腺がん  
卵巣がん・卵管がん・原発性腹膜がん  
男性乳がん

従来、乳がんや卵巣がんが家系内に複数いる場合、予防医学的な観点から自費診療として BRCA 遺伝子検査は行われていましたが、2018 年 7 月再発乳がんに対して、2019 年 6 月進行卵巣がんに対して治療薬の選定（コンパニオン診断）を目的として BRCA1/2 遺伝子検査は保険適応となりました。また、2020 年 4 月に条件を満たす乳がん、卵巣がんに対して BRCA1/2 遺伝子検査は HBOC 診断目的に保険適応が広がりました。

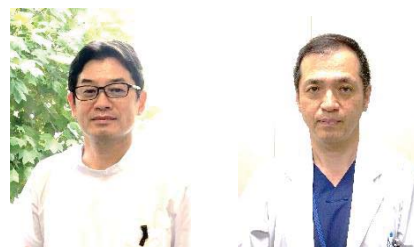
当院では、BRCA1/2 遺伝子検査および遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングを行っていますので、ぜひご活用ください。

# 泌尿器科 Vol.1

泌尿器科主任部長 福井 辰成

## ➤ 手術症例や排尿困難などの泌尿器科的対応

### もしくは処置にも対応します



山口院長

福井部長

(水曜日診療)

(月曜日診療)

\*他医師により月～金まで

毎日診療しています。

当センターの泌尿器科は、令和2年4月に開設され、それ以来常勤1名、非常勤2名にて外来診療を中心として行ってきました。

令和3年4月より常勤医師が3名、非常勤2名に増員され医療体制が充実し、外来診療はもちろんのこと手術などを含む入院診療が可能となりました。各診療科と連携しセンターの医療機能充実に努めたいと考えています。また、当センター内だけでなく近隣の医療機関との連携をさらに密にして、地域医療にも貢献していく所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

手術治療につきましては、腹腔鏡下手術（腎・副腎など）、内視鏡手術（膀胱）、内視鏡とレーザー装置を用いて行う手術（前立腺・尿路結石）など低侵襲な手術を中心にを行い、その他一般的な泌尿器科手術も行っていく予定です。さらに令和4年度中に新病院が完成予定ですが、新病院開院後には最新医療である前立腺がんに対するロボット手術（ダビンチ手術）を導入する予定です。将来的には診療状況に応じて腎部分切除術、膀胱全摘除術および腎盂形成術などロボット手術の適応拡大も考えていくことになると思います。



今後、高齢化社会が進みいろいろな診療現場で排尿困難などの泌尿器科的対応もしくは処置が必要となる機会が多くなることが予想されます。お困りの際にはお気軽に声をおかけください。



内視鏡統合ビデオシステム「VISERA ELITE(ビセラエリート)」シリーズ 膀胱腎盂ビデオスコープ

大阪はびきの医療センター 地域医療連携室

直通：072-957-8030 代表：072-957-2121

FAX：072-957-8051

地域連携室室長：川島 佳代子

マネージャー：秦 順子